

A02 計画班の宮崎充彦さんが Humboldt Researcher Fellowship を受賞

藤井 正明 (東工大・A02 計画班)

宮崎充彦さん (A02 計画班研究分担者、東工大資源研・助教) がドイツ・フンボルト財団の **Humboldt Research Fellowship for Experienced Researchers** を受賞しました。ここに心よりお祝い申し上げます。

フンボルト財団は近代地理学の開祖である地理学者、博物学者フリードリヒ・ハインリヒ・アレクサンダー・フォン・フンボルトを記念してドイツ連邦共和国 (当時西ドイツ) が 1953 年に設置した公益財団です。この財団は有能な外国人研究者に対し、ドイツにおける長期研究滞在機会を提供し、それを通じた学術文化交流を支援しており、一度フェローに選ばれた研究者に対してはドイツ滞在終了後もフンボルト・フェローとして支援しているそうです。この fellowship は博士号取得直後の若手研究者、中堅研究者、および研究室主催レベルの研究者に対するものの 3 種類があり、宮崎さんが受賞したのは中堅研究者 (博士学位取得後 12 年まで) 向けの fellowship です。宮崎さんはここ数年分光学に立脚した化学反応機構の研究に精力的に取り組んでおり、特に水とクラスターの光イオン化誘起水分子異性化の実時間観測というトピックスでは *Angewandte Chemie International Edition* 誌の表紙を 2 回飾り、また、分子科学会奨励賞を受賞するなど大きな評価を得ています。本受賞もこのトピックスによるもので、3 台の波長可変高強度ピコ秒レーザーを利用した状態選択的な時間分解赤外分光により、分子クラスターの中で柔らかく束縛された水分子が光励起 (イオン化) によって再配向する様子を実時間で観測に成功している唯一の研究です。これは凝縮相での光化学反応初期過程とされている溶媒和ダイナミクスを一分子レベルで測定していることに対応し、分子動力学シミュレーションのベンチマークとしても非常に重要です。この研究を行うためには、イオン化した分子クラスターの再安定構造を調べておく必要がありますが、これをベルリン工科大学・Otto Dopfer 先生と国際共同研究で測定しており、現在まで 13 報の国際共同論文を Dopfer 先生と出版しています。この国際共同研究により Dopfer 先生は宮崎さんの研究能力を非常に大変高く評価しており、自分が受け入れ研究者になるからは是非 Humboldt fellowship に応募しなさい、と背中を押してくれ、受賞に至りました。

この fellowship はこれから 3 年間のうちに最長 18 カ月ドイツでの滞在を支援するもので、まず半年程度の長期滞在による共同研究の計画が進んでいます。本新学術領域も国際活動支援班がスタートしており、国際研究活動を促進しておりますが、この fellowship は我々の活動としても大変喜ばしく、若手から中堅研究者にさらなる可能性を示すものと思います。共に研究室を運営しているものとしては、宮崎さんの半年間の不在は相当な覚悟が必要ですが、これにより一段と大きく、また、国際的にも存在感を高めて戻ってくるのを楽しみに送り出したいと思っています。



受け入れ研究者の Otto Dopfer 先生と Fellowship の証書を掲げる宮崎さん。



TU Berlin と Berliner bear